

これまでいただいたご意見について

7/12審議会及びその後の意見照会でいただいたご意見

対応の方向性

・ **民間のPDCAを取り入れてほしい。** 県側から見た評価、企業側から見た評価を踏まえて、課題の洗い出しと改善の作業を行ってほしい。

次年度の7月までには評価ができるKPI設定とし、評価に基づき、毎年プランの内容見直しを行ってまいりたい。

・ 支援が各業界に本当に伝わるようにしてほしい。カラマツのプロジェクトが非常に大切だと思っている。神奈川県で三井ホームが木造のマンションを作っている。信州カラマツが床材に使われているが、遮音性が高く評価が高い。もっと力を入れてほしい。

現行プランのプロジェクト12については、次期プランには直接は位置付けないが引き続き支援を行ってまいる。

・ 社内にマイスターをとっている人がおり、派遣先の企業からとても好評で良い制度だと思う。このように、県の施策を受けて実際に現場でどういう反応があるのかを取り上げる工夫をしても良い。

県施策による効果（現場の反応等）については、毎年プランの進捗報告の中に可能な範囲で盛り込んでまいりたい。

・ 人が増えない中、納期等を守るためには残業せざるを得ない。一方で働き方改革の中で残業時間も決まっており、綱渡り状態。人材確保について一緒に考えて欲しい。

就業促進・働き方改革の議論の中で検討させていただきたい。

・ **DX、GXといった言葉は5年後に時流が変わっていることも考えられ、方針に入れることはふさわしくないのではないか。また変化が激しい中において計画期間が5年である必要があるのか。**

DX、GXは言葉は変わっても、デジタル化や脱炭素の流れなどの大きな方向性は変わらないのではないかと考えている。また、**計画期間については5年としつつ、取組内容を毎年見直すことで、時流の変化に対応してまいりたい。**

・ 計画期間については、**5年間は非常に長い。**

・ グローバルな情報の提供や、県内企業の取組をグローバルな視点で評価する部分は県ができる内容。**2019年から県が先行して取組を始めたSDGsの制度は非常に良かった。**こういった取組が、グローバルな視点で盛り立てていくことにつながる。

SDGsの取組の見える化やカーボン排出量可視化・削減支援などを通じて、長野県企業が選ばれる企業となるような支援を行ってまいりたい。（重点施策4）

・ 「世界で稼ぐ」は納得できるが、別の視点で内部需要、環境政策と合わせた県内、国内の需要喚起などももっと前面に出してもいい。

総合計画の議論の中で反映してまいりたい。

これまでいただいたご意見について

7/12審議会及びその後の意見照会でいただいたご意見

対応の方向性

・林業～住宅分野での木材活用は経済的にもチャンスで環境的にも先進的に取り組める良い機会と捉えて、もっとできることがあるはず。これまでの助成金ではない形での産業改革を促すような取り組みをぜひ県主導で行って欲しい。いまこそ、行政が、川上～川下で起きてる課題にテコ入れして欲しい。

総合計画の議論の中で反映してまいりたい。

・「長野県ものづくり産業振興戦略プランの中間評価」の振り返りを確実に行うことが、次期プランの策定に必要。定量的・定性的に目標と実績との乖離を把握し、改善方法を検討することが、次期プランの策定につながる

ご意見を踏まえ、現行プランの中間評価の内容を反映した「これまでの取組と評価」「今後の方向性」の欄を追加。

・「長野県ものづくり産業振興戦略プランの中間評価」の「重点施策・プロジェクト」と「令和3年度の中小企業振興策」の「主な取組」が必ずしも一致していない。

対象範囲や趣旨が異なるため、一致させることは難しい。

・長野県は自然豊かであり、森、土、水の恵みの中で、農林水産物が育まれ、産業振興に必要な資源が豊富な土地であり、健康寿命が長く、勤勉な県民性は、他県に負けない長野県の特徴である。コロナ禍や世界的な政情不安などの中、**今ある豊かな資源を改めて見直し、それらを活用しながら、地域に根差した産業を振興していくこと、**持続可能な開発をリードすることが、次期産業振興プランの中に盛り込まれると良い。

ご意見を踏まえ、**グローバルの視点や地域資源活用、地域課題解決などの要素を追記。**

・「世界に伍する」に多少の違和感があります。「伍する」は肩を並べる意味と認識しているが、世界と肩を並べることを多くの中小企業が求めているのか疑問に思う。更には「伍する」を読めない・意味が分からない人もいるのでは？と懸念。

「伍する」については、引き続き検討してまいります。また「世界に伍する」を採用する場合は、意味が「世界で稼げる・世界で通用する産業」である旨説明してまいります。

・人材不足が本当に深刻。人材確保の好事例等あれば共有いただきたい。

今後の審議会で共有できるよう情報収集してまいります。

これまでいただいたご意見について

7/12審議会及びその後の意見照会でいただいたご意見

対応の方向性

- ・「次期プラン」と「総合5か年計画」と分けられていて、こちらは稼ぐ力の強い産業の振興・創出を主としているが、企業数・従業員数でいえば他の産業（中小・零細）が大部分になるのではないかと中心になる企業が、他の産業・企業を巻き込まなければならない仕組みや、撤退することが無いような縛りをしっかり作ってほしい。
- ・せっかく良い施策・取り組みをしても企業に伝わらないと意味が無いので、企業に伝わる情報発信をしてほしい。今は情報を自分から調べに行かないと分からないことが多いと感じる。
- ・生産年齢人口の減少は避けられない課題になるので、中小企業が人を確保できるようにしっかり後押しをしてほしいです。近年のアンケートでは若者は仕事よりも家庭・プライベートを優先するという結果が出ている。県として働き方やDXの推進などをもっと進めていただき、様々な人材が長野県の中小企業に集まる仕組み作りをお願いしたい。
- ・人材確保について産業振興の分野では難しいかもしれないが、教育の部分から改善をお願いしたい。大学進学に伴い県外に流出した人材がUターンするには費用や時間の面でデメリットが多い。県内の大学への進学を促す取り組みを期待する。

他企業を巻き込む仕組みや、波及効果を高める仕組みなど検討してまいる。

情報発信の方法についても引き続き検討してまいる。

多様な働き方の導入促進やDXの推進など、企業の魅力向上を図ることにより、長野県企業が就職などでも選ばれる企業となるような支援を行ってまいりたい。（重点施策4）

総合計画の議論の中で反映してまいりたい。

これまでいただいたご意見について

9/16～の意見照会でいただいたご意見

対応の方向性

- ・「2. 産業人材育成・確保」の⑤に関連するKPI設定してもよいのではないか。（例えば、都市部からの専門人材・経営人材の活用人数等）
- ・重点施策の取組の一つ一つにKPIが必要

重点施策毎に評価を行っていきたいと考えているので代表的なKPIを1～2つ設定してまいりたい。

- ・基本方針1と基本方針2は各々定義されているが、最終的に「稼ぐ」に繋がるのであれば、そもそも2つに分けなくてもよいのではないか。

それぞれ若干趣旨が異なるため、明確になるよう概要ページの記載方法を修正。

- ・長野県らしさである農業や林業を社員の福利厚生に活かし、社員が健康体で働いていることをブランドとして販路拡大や企業誘致に活かしていても良いのではないか。

総合計画の議論の中で反映してまいりたい。

- ・長野県全体の付加価値をどう上げていくのか、そのために工業には何ができるのか。**工業と工業以外のコラボを考えていく必要。**（例：農業ロボット等）

ご意見を踏まえ、**重点施策1**や**プロジェクトに工業以外の分野との連携**について要素を追記。

- ・「稼ぐ力」の共通認識を図るための定義が必要。「稼ぐ力の向上」とは「労働生産性の向上」なのであれば、例えば「**労働生産性の前年比**」または「**長野県とトップ県との差**」などがKPIに含まれている**必要**がある。本プランの対象企業の「利益向上率」などもKPIに含まれていた方が、より民間企業としては分かりやすい。（石黒委員）

ご意見を踏まえ、**直近の労働生産性と比較して、どれだけ増えたのかを全体の目標値として掲げ**てまいりたい。

- ・**DX、GX、LXのミックスの事業を創出するプロジェクトも想定したプロジェクトの構成が必要。**

ご意見を踏まえ、**プロジェクトの記載方法を変更。**

- ・技能人材の育成にも力を入れて頂きたい。
- ・県内の人材の質を底上げする取り組みをお願いしたい。
- ・幅広い能力開発をお願いしたい。
- ・中小企業振興をもっと地域に根差した取り組みとして頂きたい。

総合計画の議論の中で反映してまいりたい。